



# 碧南ロータリークラブ週報

第2255回例会 平成17年2月9日(水) 晴. 最高13.6℃. 最低1.2℃

- 会長 池田 弘孝 ● 幹事 黒田 昌司 ● SAA 小笠原良治
- 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90  
TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100  
ホームページ: [http:// www.hekinan-rc.jp/](http://www.hekinan-rc.jp/)  
E-mail: [info@hekinan-rc.jp](mailto:info@hekinan-rc.jp)
- 会報委員 鶴田光久・杉浦昌裕・石川唯司・竹中 誠

ロータリーを  
祝おう

100年の歩み

2004~2005年度  
国際ロータリーのテーマ



## ● 斉 唱

ロータリーソング 「我らの生業」

## ● 本日のメニュー

和風弁当 大正館



池田弘孝会長

## 会 長 挨拶

2006年W杯アジア最終予選、北朝鮮との試合が本日埼玉スタジアムで行われます。話題になっている国との戦いだけに、双方が過熱してスポーツの域を越さなければよいがと心配するところでもあります。サポーターの良識ある応援とスポーツマンシップにのっとり正々堂々と戦い、初戦にぜひ勝って勢いをつけ、目標とする「ドイツワールドカップ本大会出場」を達成してほしいところでもあります。

1936年(昭和11年)2月9日。69年前の今日、日本のプロ野球の「プレイボール」の日です。愛知県の鳴海球場で東京巨人軍対名古屋金鯱軍の第一戦が行われました。予定では2月1日から三日間三連戦するはずが、雪で延期になっていたそうです。試合は10対3で名古屋金鯱軍が初戦を飾りました。巨人軍の青柴、沢村、畑福の3投手に集中打を浴びせたそうです。第二戦は8対3、決勝戦は4対2といずれもジャイアンツの勝ちでした。特に第3戦は沢村投手にキリキリ舞だったそうです。それでも負け惜しみでなく初戦に勝った意義は大きいと69年たった今も思っている中日ファンの一人です。

今年のプロ野球は、中日出身の監督が二人いることに注目したいところだ。願わくはこの二人で日本シリーズを戦ってくれるのを期待して見たいと思っています。

## 幹 事 報 告

- ・他クラブの例会変更につきましては、お手元の資料でご確認いただきたいと思います。
- ・2月2日開催の理事会の報告をします。
  - ① 1月度収支について . . . . . 承認
  - ② 春の家族会について . . . . . 承認
  - ③ 例会変更について . . . . . 承認

- 4 / 27 → 4 / 24 (日) 万博例会
- 5 / 4 → 法定休日のため休会
- 6 / 29 → 定款第 5 条第 1 節の規定により休会

④次年度碧南市スポーツ少年団への寄付について (120,000円) . . . . 承認

⑤会員の入会について . . . . . 承認

・堀田 益隆氏

・ 2 月 9 日開催の臨時理事会報告

① W C S の活動費について . . . . . 承認

50,000円を振り込む

② 次年度の委員会と編成表について . . . . . 承認

・ 2004年の手続き要覧がきております。希望者は森さんまで申し込みをお願いします。代金は、7 \$ です。

## 委員会報告

### 〈出席奨励委員会〉

総会員数 78 名 (内出席免除者 14 名) 出席者 63 名	
出席対象者 53 / 64 名	出席率 82.81%
欠席者 15 名 (病欠者 0 名)	前々回修正出席率 100%

### 〈ニコボックス委員会〉

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

伊藤 正幸君 平成17年度新川中学校 P T A つとめさせていただきます。  
 石川 唯司君 本日卓話をさせていただきます。よろしく願い申し上げます。  
 深世古裕治君 亡父葬儀の折、会員みなさまのご芳情誠に有難うございました。  
 早退 7 件 合計 21,000円

## 卓話

### 「デンマークホームステイ雑感」

碧南 R C 会員 石川 唯司君

デンマークホームステイ雑感と題してこれからお話をさせていただきます。

肩がこらない話ですから、気楽にお聞きいただければ、幸いです。

最近では、小学生からお年寄りまで多くの方が海外旅行をされています。

皆さんの中にもいろいろなところに行っらっしゃると思います。私は今から18年前の昭和61年8月15日から8月31日までの半月間、北

欧のデンマーク、ノルウェー、スウェーデンに行っまいりました。その間、幸いにもデンマークで4泊5日のホームステイを経験することができました。私が48歳のときで初めての海外旅行でした。

日本航空の旅客機で成田空港からアラスカのアンカレッジまで行き、給油して、ドイツのデュッ



セルドルフまで、そこでドイツ航空の旅客機に乗り換えデンマークのコペンハーゲン空港に到着しました。上空を飛んでいる機内から眺めますと時差の関係でしょうか、空路すべて太陽はこうこうと照っている。改めて、地球は丸い。太陽はすべての人に平等に照らしていることを認識いたしました。そこで、「おてんとうさまは見ているよ。一人一人を。」とつくづく思いました。

コペンハーゲン空港からバスで中央駅まで行き、中央駅から電車に乗り1時間ほどで田舎の駅に到着しました。そこでは、ホストファミリーが出迎えてくれました。熱烈な歓迎ぶりです。ご主人と奥さんを紹介され、早速ご主人が私のトランクを持って車まで運んでくれました。その時は本当に心細く、まったく人さらいに遭ったような気持ちでした。車（新車ではなく中古車でした。）は奥さんが運転されました。私は、早速ブロークンな英語でご家族のことを聞きました。

ご主人は、クォーツ クリステンセンというかたで私と同年の48歳、奥さんは リサさん、娘さんがお二人でお姉さんがジュティさんで21歳、デザイナー学校に行っておられて別居されているとのことです。妹さんは、ナンシーさんで19歳、高校在学中とのことです。また、途中タバコを吸っていいかどうかを聞きました。彼は、オッケーオッケーと言ってくださり一安心でした。30分ほどで家に到着。黒い大きな犬のお出迎えを受け、部屋に案内されました。早速遅い昼食となったのです。食事は、パン、ハム、きゅうりの酢漬け、トマト、牛乳、コーヒーと質素でございますが、ご飯もあって、これには、感激いたしました。食事の途中に娘さんのナンシーさんが帰宅され、日本語で「お元気ですか」と挨拶されました。本当に心暖まる思いがいたしました。夕食も質素なものでした。夕食後、プレゼントをご主人に渡したのですが、ご主人はていねいに包装をとき本当に喜んでくれました。とりわけ、私の家内の手製のれんには、奥さんが喜んでくれました。プレゼントは高価なものよりは、やはり心のこもったものがよろしいようです。

歓談中、早速税務職員としての私はいろいろとご主人に聞きました。ご主人の職業は、農業兼酪農家であること、所有土地は70ヘクタール（1ヘクタールは10,000㎡）で約70町歩であること、その内訳は畑が30ヘクタール（大麦、砂糖大根、とうもろこしを栽培している。）、牧場、牧草地が30ヘクタール、湖が10ヘクタールであることを話してくれました。また、黒い大きな犬はドイツ犬であり、名前は「プレジデント・ニクソン」であるとユーモアをまじえて楽しそうに話してくれました。ご主人と歓談していると、奥さんがレコードをかけてくれました。奥さんから「この曲わかりますか。」と聞かれたので、何か聞いたような曲だなと思っていますと、「喜太郎」の曲ですよと言われ、奥さんの優しさにまたまた感激しました。夜10時になっても野外は明るく、時間を忘れて楽しい一夜を過ごすことができました。

あくる朝は、早く目覚めまして外を見ますと晴れ渡った上天気です。早速家を出ますと、空気はおいしく感ぜられ、つばめは飛び交っていますし、さわやかな気分で散歩です。牧場の牛たちに挨拶しながら10分ほど歩きますと湖です。ホームステイ期間中この散歩が日課となりました。

ホームステイ期間中にはいろいろな経験をしました。ちょうど大麦の刈り入れシーズンで、ご主人の作業しているところを見学させていただきました。大型のコンピューター制御のコンバインで作業が進められ、大麦をコンバインから4トントラックに積み替え、これを自宅備え付けのサイロに入れるというものです。子牛の誕生にも立ち会うことができました。生まれて30分ほどたちますと自力で立ち上がるのです。これには感動いたしました。地元の教会にも一家とご一緒しました。信仰心の厚いことがよく分かりました。ご主人の弟さんの家にも案内されました。兄弟

愛というものにも触れることができました。

ある日の午後3時頃、農作業後のティータイムのときでした。ご主人、奥さん、ヘルパーと私の4人で歓談中の出来事です。なにげなくご主人が奥さんの髪に触れ、この髪が大好きだ、心から奥さんを愛していると言われました。奥さんの髪は栗毛がかかった金髪で美しく、奥さんはやさしく微笑んでいました。夫婦愛というものを考えさせられました。最終日の午前中、娘さんのナンシーさんが地元の税務署に案内してくれました。税務署の人は親切に対応してくれ、彼女の英語の通訳で署内を見学することができました。19歳の彼女が大変しっかりしていることを改めて認識できましたし、税務署と納税者とのコミュニケーションができていることに感心させられました。

このホームステイで感じたことは、デンマークの人は歴史、文化を大切にし、自由を重んずる国民性であること、デンマークはご承知のとおり高福祉、高負担の国ですが、田舎のホームステイをした娘さんは考え方がしっかりしており、頼もしく感じられた反面、コペンハーゲンの都会の若者の中には働く意欲に欠ける人も見受けられ、弊害がみられました。我が国におきましても、福祉と負担のあり方が問題となっていますが、考えさせられる問題です。また、デンマークの人の食生活は大変質素なものでした。日本では、飽食の時代であり、考えさせられました。

最後に、ホームステイの最終日の晩餐会のときです。私をご主人に「アイ ホープ ユウ big farmer」と言いますと、ご主人は「No, No, I hope good farmer」と誇らしげに答えてくれました。一本取られた思いでした。

次回例会案内 ロータリー100周年例会 平成17年2月23日(水)  
卓話 「私のロータリーの歴史」 会員 山中 寛三君